



ボーリング柱状図をデジタル化

ビジネス展開も視野

相愛は国や高知県・高知市が所有する高知市域の約2000本のボーリング(掘削)柱状図をデジタル化して、各地域の地質データベースを作成。「表土・埋土・盛土」「粘性土」といった地下部分の地質構造を、3次元でウェブ上に表示する。

ボーリング柱状図は通常、住宅や道路の建設時における地質確認に利用されているが、災害予測

相愛など

地盤3次元情報、ウェブで

高知市内 データ化 災害予測など活用

建設コンサルテンクスの相愛(高知市、永野敬典社長)などは、高知市内各地域の地盤情報をデータベース化し、ウェブ上で地盤の3次元モデルなどを表示する事業を展開する。地質構造を反映した地震の揺れや土砂災害などのシミュレーションに利用できる。自治体の災害予測に提供するほか、不動産や保険分野などへのビジネス展開も目指す。

相愛は国や高知県・高知市が所有する高知市域の約2000本のボーリング(掘削)柱状図をデジタル化して、各地域の地質データベースを作成。「表土・埋土・盛土」「粘性土」といった地下部分の地質構造を、3次元でウェブ上に表示する。

図を数多く集めてデジタル化することで地質情報の精度を高めた。詳細な地質情報を基に、地震の際の揺れ方や液化化予測などを狭いエリア(250四方の観測網)ごとにシミュレーションできる。土砂災害の警戒個所など自治体の関連情報も盛り込み、豪雨などの際に刻々と変化する雨量データなどを入力することで、災害リスクをリアルタイムで算出

することも可能になる。相愛などは2010年度中に試験運用を始め、11年度から本格的にシステムの情報提供を始めると。国や県、市のボーリングデータをウェブ公開するのは全国で初めて。災害予測システムの構築を目指した地盤情報のデータベース化は、総務省による09、10年度の「ユビキタス特区」事業に採択されている。

か、全国地質調査業協会連合会、地質会社の地研(高知市)、特定非営利活動法人(NPO法人)地質情報整備活用機構、同ASP-SaaS普及促進協議会の2社3団体で構成する「高知市地域

「盤災害情報協議会」。相愛は今後、地盤情報データを自治体向けのハードマップ作製などに提供するほか、不動産鑑定や地震保険の保険料率の算定など有償サービスへの活用も検討。将来的

には携帯電話やカーナビへの情報提供も視野に入れている。インターネットによる有償サービス提供の課題などを検証したうえで、新たなビジネスモデルの全国展開を目指す。